



「子どもが欲しいけど・・・」

そんなあなたに「**妊娠前相談**」

将来妊娠を望んでいる人や、妊娠に関する悩みを抱えている人からの相談に助産師、保健師、栄養士、歯科衛生士が応えます。

- 対象 市内在住で将来妊娠を考えている女性およびその夫(パートナー)・家族
 - 日時 月～金曜日の平日①午前9時～11時 ②午後1時～4時
 - 会場 花巻保健センター
- ※完全予約制。予約は健康づくり課へ

妊娠前から子育てまで 花巻保健センターに ご相談ください

【問い合わせ】健康づくり課(☎23-3121)



「子育てについて相談したいけど、どこに相談したらいいの?」

こんなとき、一人で悩まず「**子育て世代包括支援センター**」へ

市では妊娠から出産、子育てまで切れ目なくサポートするため「子育て世代包括支援センター」を開設しています。

保健師などがお話を伺い、相談内容に応じたアドバイスやサービスの情報提供を行います。

▶**妊娠期**…母子健康手帳交付の際にお話を伺い、困り事や悩みのある人には継続してサポートします。

▶**出産前後**…出産前に体調の確認や、不安なことがないか電話で伺います。出産後は保健師や助産師が家庭を訪問し、体調確認や育児の相談に応えます。

▶**子育て期**…乳幼児健診のほか、子育てについての困り事などの相談に応えます。必要に応じてサービスを紹介したり、関係機関と共にサポートしたりします。



- 対象 妊娠や子育てなどでお悩みの人
- 日時 月～金曜日の平日
- 会場 花巻保健センター

献血でつなぐ 愛のバトン



7月は「**愛の血液助け合い運動**」月間です

夏の時期は、長期休暇などにより学校や企業、団体などからの献血への協力が少なくなり、輸血用の血液が不足することがあります。

献血は身近にあるボランティアです。輸血を必要としている人のために献血にご協力ください。

献血とは

病気やけがなどで輸血を必要としている患者に健康な人が血液を提供することです。

献血には、200^{ミリ}・400^{ミリ}献血と成分献血があります。※市内で実施する献血は400^{ミリ}献血をお願いしています

なぜ献血が必要なの?

血液は長期保存することができず、また、人工的に造ることもできません。

血液製剤の有効期間は、赤血球製剤で21日間、血小板製剤は4日間しかありません。そのため、全国各地で、ほぼ毎日献血が行われています。

どれくらいの献血が必要なの?

国内では、1日当たり約3千人の患者が輸血を受けているといわれています。その中には大量の輸血が必要な場合もあり、全ての患者に血液を届けるためには、1日に約1万5千人分の献血が必要となります。

このため、献血者数を時期の偏りなく、一定的に確保することが重要なのです。

どこで献血できるの?

平日は主に事業所に、休日はショッピングモールなどに献血バスを運行しています。

平成29年度、市内では2116人(200^{ミリ}18人、400^{ミリ}2098人)の皆さんにご協力いただきました。本年度も血液を必要としている人のために献血をお願いします。

※献血日程は広報はなまきや市ホームページに掲載しています

【問い合わせ】

健康づくり課(☎23-3121)

8月1日(水)～10日(金)は「夏の交通事故防止県民運動」

『ぶつかるよながら運転じこのもと』

問い合わせ 新館市民生活総合相談センター(☎24-2111内線253)

夏場は、暑さと長距離運転による疲れや、夏休みによる気の緩みから重大事故の発生が懸念されます。

家族や職場、地域の皆さんで交通ルールやマナーの順守を徹底し、交通事故を防止しましょう。

【運動の重点】

- ①暑さなどによる過労運転の防止
- ②夏休み中の子どもの交通事故防止
- ③全ての座席でシートベルト・チャイルドシートの正しい着用の徹底
- ④飲酒運転の根絶